



令和四年を振り返って

元日、未明からの雪で雪景色の正月を迎える

十一日、愛知県新城設楽農林水産事務所に受賞報告

十八日、鳳来寺小学校(四・五年生)田越し&田んぼ飛び(NHK取材)

十九日、教科書作成協力「大代の山崩れ」(社会科 新版版)

二十五日、穂の国ネット寄稿 送付

二十七日、横浜ゴム 廣川業務課長 幹部五名 新年度事業打ち合わせのため来宅

三十日、集落協定 生産活動

二月一日、愛知県 愛知の引力(英語、中国、日本語版)作成協力

十二日、集落協定 勉強会

十五日、ヤマアカガエル産卵

十六日、「つなぐ棚田遺産」認定

廿日、ほうじ茶講習会 四谷の千枚田地域振興協議会ほか

三月九日、NHK「まるっと」放送

十二日、集落協定 総会

二十五日、内閣府 地域活性化伝道師 継続任命登録

同日、つなぐ棚田遺産認定式 東海農政局 参事官 愛知県新城設楽農林水産事務所 建設課 新城市 鳳来地域課 ほか(新城市役所)

三十日、セネガル研修生受け入れ 中山間地の農法、環境など

同日、愛知県新城設楽農林水産事務所

所 小林所長 退任挨拶に来宅

四月六日、横浜ゴム 新城工場 新人 幹部研修(二十名)

七日、横浜ゴム パワトレ沿道清掃 奉仕

十日、奥三河パワトレイルエイド ステーション 接待

十一日、愛知県新城設楽農林水産事務所 村山所長 訪問 近況報告(獣害被害など)

十四日、千枚田に鯉のぼり揚げる

二十二日、千枚田入口に「集落あり」の啓蒙看板設置

五月五日、長篠合戦のぼりまつり タニシ奉納(式典のみ)

六日、鳳来寺小学校 五年生代掻き

十日、中日新聞 広報誌 NEWS 掲載

十一日、鳳来寺小学校 田植え

十二日、豊橋調理製菓専門学校 田植え

十四日、ヤマサちくわ田植え

二十二日、「お田植感謝の夕べ」中止 決定

二十三日、モリアオガエル産卵

二十八日、環境整備 保存会

六月一日、千枚田にホタル乱舞

二日、豊橋調理製菓専門学校 田の草取り・梅取り

八日、市内八名小学校 五年生校外学習(二十二名)

十六日、鳳来寺小学校 五年生 自然観察会

七月十日、農協新聞に記事掲載

八月七日、千枚田 古宿周辺の田んぼにニホンザル群れで出沒被害大

八日、立正大学 棚田学会 経由のアンケート 回答

九日、豚コレラで減少したイノシシ、急激な出沒がみられる

十八日、仮設トイレ 協力金 盗難

二十四日、愛知大学 学生視察 県事業(十三名)

二十四日、新城 最高気温を記録

二十六日、愛知大学 学生視察

九月八日、豊橋調理製菓専門学校 稲刈り(ティーズ取材) 東海農政局 視察 超急傾斜地の説明を受ける

同日、横浜ゴム 新城工場 地域貢献活動 外来種 駆除 作戦

九日、アフリカ地域「稲作振興のための中核的農学研究者の育成」の技術研修(国際協力機構)

十一日、リアル案山子設置

十六日、鳳来寺小学校 稲刈り(NHK取材)

同日、愛知大学 地域貢献 研修

二十二日、映画ロケ立合い

二十六日、知立商工会 女性幹部(十三名) 研修

同日、千枚田の稲刈り ほぼ終了

十月一日・二日 第二十七回 全国棚田サミット 参加(六名) 滋賀県 高島市

十一日、四谷の千枚田 絵画コンクール 審査(最優秀賞五名 優秀賞十名 入賞三十五名)

十三日、豊橋調理製菓専門学校 脱穀

二十一日、八雲だんご 豊橋まつり

「四谷の千枚田盛り上げ隊」売上金の寄付

二十七日、古米出荷(八雲だんご)

三十日、環境整備 保存会

十一月一日、ジブリパーク 配布資料



日本三大石積の棚田

の写真提供(東三河コンベンションからの依頼)

二日、あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞授賞式(東京北トピア)

五日、テレビ愛知「愛知あたりまえワールド」放送

七日、写真の提供(雪・夏) 三遠ネオフェニクス

八日、「つなぐ棚田遺産」写真の提供

十一日、講師講演「むらの宝」継続は力なり」・「獣害被害対策」県土地改良会館

十二日、収穫感謝祭 中止とする

十四日、愛知県新城設楽農林水産事務所 所長訪問 受賞報告、近況報告

廿日、集落協定 生産活動

二十三日、研鹿神社 新嘗祭(八雲だんご千枚田五平餅関係者と)

十二月四日、愛知県広報誌「あいちのトビラ」写真掲載、了解

生産活動

十一月廿日、中山間地域等直接支
払制度四谷集落協定の生産活動の
一環として農道、水路、周辺林地の
草刈り、及び清掃を役員（四
班）に従って行った。



明るい話題

十二月三日、連谷公民館役員有志
による旧連谷小学校グラウンドの
整備が行われた。

早朝から数台の耕運機がダツダ
ダツとグラウンドを耕起する音が
鳴り響いた。

公民館活動や敬老会で催される
グラウンドゴルフのコースに穴ボ



ツチがあつたり草むらがあつたり
で楽しい競技もなかなか難儀であ
つた。

草一つないほど奇麗に整地され
たグラウンドに「ボールがシャンク
した」とか、「草に絡んでボールがど
つかえいっちゃった」などと、下手
な言い訳はできなくなった。

得てして、学校統合などで廃校に
なったグラウンドや体育館は管理、
整備が疎かになり、持て余し気味な
施設もあるが、連谷地区はグラウ
ンドの使用頻度を高め、保全保守に
心掛けている。また、体育館の床も

ワックス掛けを行いピカピカの床
に、室内競技やイベントも、いつで
も気持ちよく使われるように尽く
している。

今回のグラウンド整備や体育館
のワックス掛けは「サー」と言え
ば「サー」と動く区民性（連谷魂）の表
れと、嬉しい事である。

《既報》ふるさとウォーキング

十一月十三日に行われたふるさ
とウォーキングのコース「興良木隧
道」をバックにした集合写真を掲載
した。



興良木隧道（明治二十七年竣工）
は県内の近代道路トンネルとして
は最古で重厚な石積形式であり、面
壁が伊世賀美隧道（明治三十年）や
天城山隧道（明治三十三年）と同じ
造りである。歴史的には両者よりも
古く、郷土に残したい遺産である。

昭和五十三年、稲目トンネルが開
通するまでは主要地方道で、バスも
大型トラックも通っていた。今、思
うと曲がりくねった細い道、小さな
トンネル。…まさか？ うそ…と
時代の変遷に驚かされる。

傘杉のしめ縄用に

四谷の千枚田の糯藁を奉納

鳳来寺山中腹にある傘杉（国指定
天然記念物）の高さ四段付近に毎年
師走の二十九日に「しめ縄」の張り
替えが行われる。登山口の石段から
約三百二十段目にある傘杉は樹齢
約八百年、幹の太さは八段、樹高五
十八段で日本一を誇る。

しめ縄は太平洋戦争の終戦後、復
員兵たちが無事を祈って飾ったの
が始まりという。現在は住民有志で
保存会を作って行っている。二十九
日に行うのは「福」に因んでいるそ
うだ。

行 令和四年十二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二